

一般質問通告書

通告順番 6 番

通告者 大村 裕一郎 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1 位置情報アプリのリアルイベント誘致について	現在、大津町では様々な目的を持ってイベントが誘致され、どれも盛況を迎えている。 特に、モルックの大会やバイクに関するイベントなどは参加されている方も多く非常に良いイベントではなかったかと考える。 しかし、こうしたイベントの大方の目的はやはり地域経済の活性化や交流人口の増加を図ることである。 最近はある位置情報アプリゲームのリアルイベントが地方自治体の協力のもと行われ、数日で 39 万 6 千人の方が参加し、地元経済効果は約 42 億円を記録しているものもある。例えば、今年行われた熊本城マラソンでは経済効果が約 33.85 億円と比較してもそれを上回る効果が期待できる。また、位置情報アプリのイベントは外で行うため大津町をまず知ってもらう上でも非常に高い宣伝効果があり、周遊型のイベントもあるため様々な史跡に誘導することもできる。さらに、こういったイベントは何かしらの施設が必要というわけでもなく、空港の近い大津町は特に誘致する上でも有利に働く可能性を秘めている。 こうしたイベントに手を挙げ誘致の努力をし、大津町の経済に寄与すべきではないかと考えるが町長の考えを問う。	町 長
2 科学館について	TSMC の熊本進出以降、報道ではしきりに半導体人材の不足が騒がれている。 そして、その解消に向けて県内の大学などでは学部の新設など様々な動きが見られる。 しかし、そもそも教育をする前に子どもたちが興味を持たなければ半導体の業界に足を踏み入れることはない。また、県内を探しても単発でイベントなどはあっても年中通して、半導体を含む科学に触れることができる場所はない。 さらに、子育て世代からすれば、子どもを遊ばせる場所が大津町には公園しかない状況であり、依然として「家族で出かけるならば町外に」「子どもたちだけで遊びに行くにも町外に」の状況が続いている。そもそも、若い世代が外出して多く消費行動を行うのにも関わらず町内の若い世代が一番消費行動を行う休日に町外に出ている、町内の経済は疲弊してしまう。理想は、町内在住の若い世代に町内で様々な消費行動	町 長 教 育 長

一般質問通告書

通告順番 6 番

通告者 大村 裕一郎 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
3 親元就農の要因に係る分析結果について	をしていただくとともに交流人口を増加させ、大津町で様々な消費を行ってもらうことではないか。 また、文部科学省によって実施された全国学力・学習状況調査の結果を見ても小学 6 年生においては月に 1 回以上博物館や科学館に行く子どもと行ったことがない子どもでは大きな学力の差も見られる。 そうした状況を踏まえ、半導体分野における未来の科学者、技術者の育成に寄与する科学館を作るべきではないかと考えるが町長の考えを問う。 国では 2020 年からの 10 年で基幹的農業従事者が 108 万人から 54 万人に半減すると推計している。これにより熊本県では「後継者が残っている地域・農業者の調査分析」を実施し、調査を行っている。調査結果では、後継者がいる割合は、所得が多いほど高い傾向にあり、農業所得金額が 700 万円を超えてくると段階的に後継者が増加するような結果となっている。また、農業を継いでいない方へのアンケートでも「農業で家族を養える十分な収入があったなら継いでいた」と回答された方が回答数全体の半数を占めており、食料安全保障の観点からも稼げる経営体を増やすことが必要である。 そして、同じくアンケート結果から農業従事者が年齢を重ねると学びたいことが技術面から経営面に変化しているような状況も見受けられ、税金や財務諸表、簿記、確定申告、マーケティング等を学びたいとの意向も出てきている。 そうしたことも踏まえ、稼げる農業への転換のためにも農業における普及指導員などと連携協力し、経営に関する学びの場や利益率を上げるための技術に触れる機会をさらに増やし、継続して提供すべきではないかと考えるが町長の考えを問う。	町 長